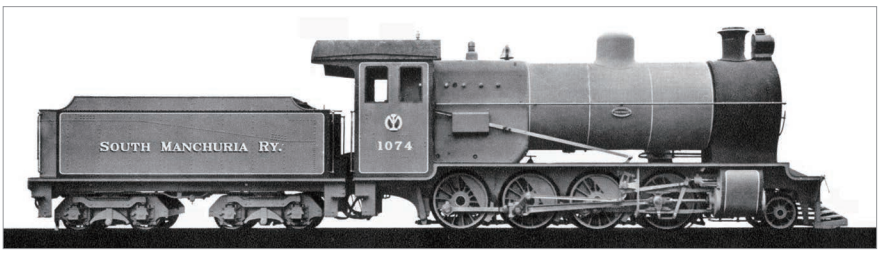
# 鉄道人物伝
No.40

## 工場長から人事官へ 山下興家

山下　興家
（やました　おきいえ）

小野田 滋／情報管理部　担当部長




南満洲鉄道$H_3$形（のちソリ$_{ヲ}$形）蒸気機関車

### ■ 満鉄を経て鉄道院へ

山下興家は，山下興作（伊予吉田藩士族でのち東宇和郡長，周桑（しゅうそう）郡長などを歴任）の次男として1881（明治14）年4月30日，愛媛県北宇和郡吉田町（現在の宇和島市の一部）で生まれました。東京帝国大学工科大学機械工学科に進学して，同校を1906（明治39）年に卒業し，野戦鉄道提理部大連工場勤務となり，翌年にその組織を母体とした南満州鉄道の設立にともない同社社員となって，引き続き大連工場に勤務しました。

1909（明治42）年11月にはイギリスへ派遣され，ベイヤー・ピーコック社で製造されていた満鉄$H_3$形（のちソリ$_{ヲ}$形）蒸気機関車の製作監督にあたりました。1911（明治44）年には，さらにアメリカへ渡り満鉄から発注された車両の製作監督にあたったのち，ヨーロッパに戻って1912（大正元）年8月に大連に帰着し，沙河口工場に勤務しました。そして，工場長に着任したばかりの森彦三（本誌2019年9月号参照）のもとで$H_3$形蒸気機関車をベースとした南満洲鉄道で初の自社工場製となる$H_4$形（のちソリ$_{シ}$形）蒸気機関車を1914（大正3）年に完成させました。

### ■ 工場長として

山下は，1916（大正5）年12月に鉄道院へ転じ，中部鉄道管理局大井工場技師となり，さらに1920（大正9）年5月には大井工場長に就任し，1923（大正12）年3月には大宮工場長となりました。山下は，工場長として現場管理の合理化に取り組み，かつてアメリカの工場で学んだモーションスタディ（動作研究）やフレデリック・テイラーの職能別職長制度の思想を導入しました。大井工場では旧来の組長制度を改め，1922（大正11）年から職種別の分任制度に切り替えられました。

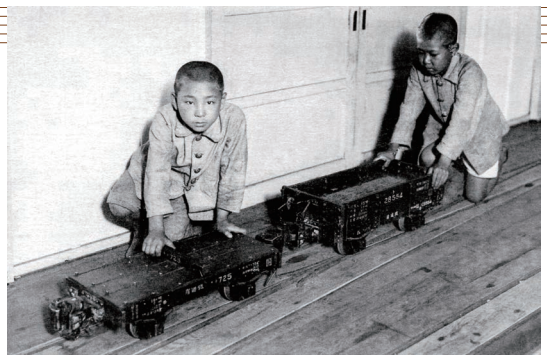
大宮工場長在任中の1924（大正13）年4月，工場内の倉庫を利用して鉄道関係の車両や機械類の実物や模型を展示した鉄道参考品陳列場を設けました。鉄道博物館はすでに1921（大正10）年に開館していましたが，山下はかつてイギリスに駐在した際，ロンドンのサイエンス・ミュージアムで見たボタン操作で動く展示物に興味を惹（ひ）かれ，これを日本でも実現すべく，大宮工場の職場主任に命じてその製作にあたらせました。鉄道参考品陳列場は，山下の「手を触れて実地に動かして御覧なさい。」というコンセプトにより人気を集め，一般にも公開されました。

また，関東大震災直後の1924（大正13）年4月には「建造物ノ耐震装置」として，建築物の柱の四周を2軸車両の板バネで支え，柱を滑らせながら板バネで変位を抑える免震構造の特許を出願し，翌年5月には特許第63867号として取得しました。

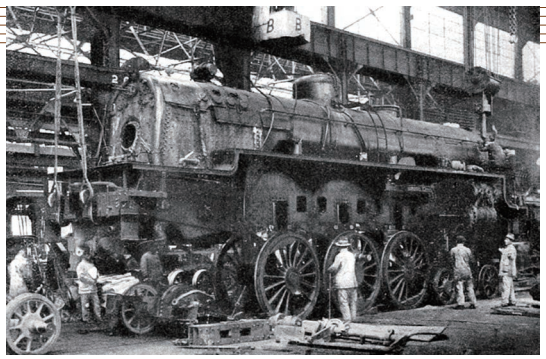
1924（大正13）年12月には工作局工場課長に就任しましたが，当時は貨物輸送のための荷役作業の機械化が課題となっており，山下は工務局に交渉して停車場費の一部を工作局の機械関係の予算に充てました。さらに1927（昭和2）年には車両部門から機械設備部門が独立することとなり，山下は新設された工作局機械課の初代課長に就任しました（4か月間は工場課長と兼務）。その後，1928（昭和3）年3～10月にかけて海外に派遣され，スイスのジュネーブで開催された第11回国際労働総会に日本政府代表として参加し，1925（大正14）年に実施された自動連結器の一斉取替えについて報告を行いました。

### ■ 工作局長として

山下は1929（昭和4）年1月，鉄道省



大宮工場鉄道
参考品陳列場
の展示



大宮工場における
C51形蒸気機関車
の修繕作業
（文献4から）

工作局長に就任し，国鉄車両を管理する総責任者となりました。同年秋に東京で開催された万国工業会議では，「On the Method of Rolling Stock Repair in Japanese Government Railway（鉄道省における車両修繕について）」と題して工場の修繕作業の合理化に関する報告を行い，この発表を契機として大宮工場からソビエト連邦に技術者が派遣されました（本誌2018年10月号参照）。

1930（昭和5）年6月，商工省の外局として臨時産業合理局が創設され，山下は生産管理委員会会長を嘱託されました。この組織は，昭和恐慌下での産業合理化政策を推進するために設置され，生産管理委員会では工場従業員の生産管理の改善策の検討にあたりました。また，臨時産業合理局と民間企業との連携を図るための団体として1931（昭和6）年4月に日本工業協会が設立され，山下はその常務理事に就任しました。日本工業協会は，1942（昭和17）年に国策によって日本能率連合会と統合されて日本能率協会となり，山下は引き続きその常務理事として生産管理委員会委員長を担務しました。

なお，実兄の山下芳太郎は，外務省から首相秘書官を経て住友総本店支配人となった人物でしたが，1920（大正9）年に仮名文字協会を大阪に設立して非効率的な文字である漢字に代って，改良カナ文字とカナ文字タイプライターの普及にあたっていました。芳太郎は1923（大正12）年に逝去しましたが，興家は兄の遺志を継いで仮名文字協会の理事となり，その普及活動にあたりました。

1933（昭和8）年6月に鉄道省を退官して日産自動車取締役となり，さらに日本機械学会自動車部門委員会委員長として国産自動車の普及にあたり，1935（昭和10）年には日立製作所取締役となりました。その後，1939（昭和14）年4月には，松縄信太（本誌2018年7月号参照）の後を継いで第17期日本機械学会会長に就任しました。

## ■ 人事院人事官として

山下は，終戦直後の1945（昭和20）年10月に日立製作所取締役を退いて顧問となり，婦人雑誌の対談に招かれて文化人とともに日本の新しい教育制度のあり方を語るなどしていました。また，運輸省の諮問機関である自動車交通審議会会長や鉄道審議会委員を委嘱されたほか，1946（昭和21）年10月，内閣に設置された行政調査部（のちの行政管理庁の母体となった組織）の運営部長に就任しました。

1947（昭和22）年11月，国の人事行政の調整機関として設置された臨時人事委員会の委員に任命されたのち，1948（昭和23）年12月7日付で創設された人事院の初代人事官に就任し，新しい時代にふさわしい公務員制度の確立に尽力しました。

1952（昭和27）年2月に任期満了で人事院を退官し，同年12月には日立製作所に復帰して同社特別顧問となりましたが，1960（昭和35）年6月20日に他界しました。雑誌「鉄道工場」では山下興家の功績を讃（たた）えて山下賞を創設し，1961（昭和36）年より鉄道工場における作業改善や発明考案を顕彰しました。

### 文 献


1) 山下興家：大宮工場の展覧会／展覧会に就て，鉄道時報，No.1301，1924
2) 山下興家：第十一回国際労働会議に臨みて（1）～（3），鉄道時報，No.1526～1528，1929
3) 山下興家：東京鉄道局大宮工場改築の概要，機械学会誌，Vol.34，No.170，1931
4) Yamashita，Okiiye：On the Method of Rolling Stock Repair in Japanese Government Railway，World Engineering Congress，Tokyo 1929，Vol.XⅥ，Railway Engineering Part4，1931
5) 山下興家：自動車工業国策樹立の急務，日本機械学会誌，Vol.43，No.276，1940
6) 山下興家：研究の能率，日本機械学会誌，Vol.44，No.293，1941
7) 山下興家：側弁式低圧縮ヂーゼル機関，日本機械学会論文集，Vol.12，No.42，1947
8) 座談会・新しき教育を語る，婦人之友，Vol.40，No.4/5，1946
9) 山下興家：人事院に課せられた三大目標，人事院月報，Vol.1，No.8，1950
10) 笠松慎太郎：荷役機械の恩人山下興家氏，荷役と機械，Vol.1，No.2，1950
11) 山下興家：国鉄に機械課が創設されるまで，荷役と機械，Vol.2，No.5，1955
12) 佐々木聡：科学的管理法の日本的展開，有斐閣，1998